

地域全体の調和のとれた発展を期待したい。

今いろいろな所で干いも生産への関心が高まっている。

県内でも栃木県境の御前山村に小規模ではあるが、新しい産地が形成されようとしている。村おこしの一つの方策として始められ、品質面に力を入れている。

干いもは、それが生れた時から人々に注目されてきた。そして飽食の時代と言われている現代においても注目されている。

そのような状況の中で、産地発展のため、問題解決に取り組んで行きたい。

〔略歴〕 泉澤 直^{いずみざわ ただし}（茨城県農業試験場技師）

昭和30年6月茨城県水戸市に生れる。昭和55年3月鳥取大学農学部農学科卒業。昭和55年4月茨城県神栖地区農業改良普及所勤務。昭和57年6月茨城県農業試験場勤務。土壌肥料部を経て作物部に移り現在に至る。サツマイモ、ラッカセイ等を担当。

紫色のサツマイモ

—その1—



川越いも友の会理事

井上 浩

一、井の中の蛙

川越地方でサツマイモといえば、名産のベニアカ（紅赤）のことになる。金時とも言われるように、皮は鮮紅色だが、中は黄色。ホクホクで香気高く、サツマイモの女王とうたわれている。

太平洋戦争前には、タイハク（太白）のような粘質で白いイモもあったが、戦後は影をひそめ、ベニアカかそれに近い紅高系、紅小町、紅東などが出回っている。

そのため川越地方では、サツマイモはどれも黄色だと思っている人が多い。そういうわ

たし自身が、ついさいきんまでそうだった。ところがサツマイモの世界も広く、奥が深い。紫色のイモまであったのだから。

二、指宿の梅村芳樹先生

昨夏（昭和62年）のこと、川越いも友の会の有志、十数人で「カライモ調査団」なるものを作り、鹿児島県へ行った。

そこで驚いたのは、どこへ行っても広大なサツマイモ畑が続いていることと、川越では見たことも聞いたこともないサツマイモやその加工品が、いたる所にあったことだった。

とりわけ驚いたのは、身が紫色のイモが何種類もあったことだった。それを最初に知ったのは、農林水産省九州農業試験場指宿試験地であった。

ここはわが国のサツマイモの育種のメッカで、研究責任者は梅村芳樹先生。先生の発想は豊かでユニークだ。これからのサツマイモは、味や形だけでなく、色も楽しめるようにしなければ需要は伸びない。色々の色のイモを創り出し、それをデザート感覚で楽しく使ってもらう時代、それがすぐそこまで来てい

バレイショ増収一〇〇〇問答

■三百回余りの講演で、いも作従事者からいたいた千四百余の質問を整理し、これに回答。基本から植付け、収穫・防除までを解説し、厳しさが加わる現代農家に大きな指針を示す好著。北大助教授・吉田稔著 定価七〇〇円 送料二五〇円

清薯源流の砦

■現在の種苗管理センターのいも作関係は、昭和二二年に創設された「馬鈴しょ原種農場」がその出発である。各農場の歴史と現況を報告した本書は、関係者必携の好資料。各農場職員名簿付。いも類振興会編・定価七〇〇円 送料二五〇円

21世紀に向けてのいも作り

■生涯を北海道のバレイショ作に投入した著者快心の著作。その視野は需要者の品質要望から国際競争力まで、魚眼レンズのようにひろがり、いも作従事者の今後の指針を示す。

吉田稔著 定価六〇〇円 送料二五〇円

アンデスから食卓まで

■ジャガイモのふるさとアンデスから出発し、その料理法や品種の特性、栽培から食卓への供給までを、オールカラーで紹介。読んで楽しく、為になる小冊子。

田中智著 定価三〇〇円 送料一七〇円

熱帯アジアの馬鈴薯生産

■東南アジアの馬鈴しょ生産の実態を、各国のレポートから翻訳した貴重な資料。とくにシンポジウムでの発表は、わが国馬鈴しょ作に大きな示唆を与えるものである。

秋元喜弘著 定価八〇〇円 送料二五〇円

ると見られている。

黄色や白は、むかしからあった。オレンジ色もあることはあったが、さいきんではより美しいカロチンイモ、ベニハヤト（紅隼人）のようなものも開発されている。

オレンジ色のサツマイモは関東ではまだほとんど知られていないが、鹿児島県下では結構作られているらしい。西鹿児島駅前の朝市にも、たくさん出ている。

次は、どうやら紫らしい。梅村先生はすでに鹿児島県下から様々な紫イモを集めておられ、それらで試作したというペーストやあんこ玉、プリン、シャーベット、アイスクリームなどを次々に出して下さった。

どの紫も、目のさめるようにきれいだった。しかもオレンジ色や黄色のイモで作ったものも一緒に出して下さったので、食卓は一層楽しく華やかになった。

これなら梅村先生の「カラフルなデザート

感覚」もよく分かる。長い間、救荒食、代用食とされてきたサツマイモだったが、これで大きく変身できるのだろうか。

いずれにしてもサツマイモ問題の最先端に触れることができ、もうそれだけでもカライモ調査団は大成功だった。

いも類振興情報 第18号

1989年1月15日発行

発	行	所	財団法人 いも類振興会
			東京都港区赤坂6-10-41
			ウィップ赤坂303号室
			電話 03-588-1040
			振替・東京3-110152
印	刷	所	交通印刷株式会社